業論文研究では研究の意義、研究手法等を学び実験・解析を行う。そして、学生はそのテーマに関連する過去の研究について文献調査を行い、実験や研究を計画、遂行することによって、研究テーマに対して深い知識と理解が得られるようになる。また必要に応じてゼミを行い、研究の進捗状況について指導教員とのディスカッションを行う。卒業論文研究の成果は“卒論発表会”にて発表し、プレゼンテーション能力を養う。また、卒業論文を執筆することにより、論理的な考え方と論文の書き方を学ぶことになる。

卒業論文研究は、3 年間勉学してきたことがどのように利用できるかを実際に理解する場であり、本学科では最も教育効果の上がる教育の一つとして位置付けている。また、卒業論文研究では学生自身が積極的かつ主体的に研究に励むことによって成果が得られるものであり、これを通して海洋土木工学の技術者としての素養を身につけることができる。

4. 卒業後の進路について

近年の進路の内訳は、大学院博士前期課程に進学する学生が 3～4 割、就職する学生が 6～7 割となっている。主な就職先は、ゼネコン、建設会社、建設コンサルタント、コンクリート二次製品メーカー、建設材料メーカー、国土交通省、県庁、市役所、などである。なお、本学科を卒業すると、測量士補、技術士一次試験免除の資格が得られる。また、技術士、測量士、施工管理技士、土木学会認定技術者資格（2 級技術者）などの資格を取得することも可能である。

5. JABEE プログラムについて

JABEE プログラムの概要

JABEE（日本技術者教育認定機構）は、大学などの高等教育機関の技術者教育プログラムが各分野における社会の要求水準を満たしていることを期限付きで認定することにより、専門職として適切な業績を上げ得る質の良い技術者の育成を支援することを目的としている。JABEE の基準に合致していると認定された教育プログラムの修了生は、専門職として実務に就くための必要最低限の能力を保持しているとみなされる。

2013 年度現在、本学科で実施している教育プログラムは JABEE の認定を受けており、認定期間中に本学科を卒業した学生は JABEE 教育プログラムの修了生となり、以下のメリットが得られる。

・海洋土木工学に関する質の高い技術者教育を受けていることが客観的に証明される。
・技術士の第一次試験合格と同等とみなされ、修習技術者として直ぐに実務経験を積むことができる。
・技術士など、各種資格試験を受験するまでの期間が短縮される。

本学科の教育目標と JABEE 基準との関連

本学科の教育プログラムにおける学習・教育到達目標は、「1. 教育目標」で示した[A]から[H]の 8 つの項目である。この学習・教育到達目標と JABEE の要求する以下の基準との対応を示したものが表 3 である。対応する項目には○印で、密接に対応する項目には◎印で、それぞれ示している。

［JABEE の共通基準・分野別基準］

(a) 地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養
(b) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対して負っている責任に関する理解
(c) 数学及び自然科学に関する知識とそれらを応用する能力
(d) 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力
(e) 種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力
(f) 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力
(g) 自主的、継続的に学習する能力
(h) 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力
(i) チームで仕事をするための能力

※(d) 土木および土木関連分野

(1) 応用数学
(2) 自然科学（物理，化学，生物，地学のうち少なくとも１つ）の基礎
(3) 土木工学の主要分野（土木材料・施工・建設マネジメント／構造工学・地震工学・維持管理工学／地盤工学／水工学／土木計画学・交通工学／土木環境システム）のうち、最低３分野
(4) 土木工学の主要分野のうちの１分野以上において，実験を計画・遂行し，結果を正確に解析し，工学的に考察し，かつ説明する能力
(5) 土木工学の主要分野のうちの１分野以上の演習を通して，自己学習の習慣，創造する能力，および問題を解決する能力
(6) 土木工学の専門分野を総合する科目の履修により，土木工学の専門的な知識，技術を総動員して課題を探求し，組み立て，解決する能力
(7) 土木に関連する専門的職業における実務上の問題点と課題を理解し、適切に対応する基礎的能力

学習・教育到達目標に対する目標時間

各学習・教育到達目標に対する達成度の評価方法は、主として各科目に関連付けている学習・教育到達目標の学習保証時間で評価している。各学習・教育到達目標に対する目標時間は、関連する科目に割り振られた学習保証時間を用いて、以下のように設定されている。

[本学科の学習・教育到達目標（キーワード）]	[目標時間]
[A]「人類の幸福と福祉」	120時間
[B]「持続的発展と調和」	110時間
[C]「コミュニケーション能力」	165時間
[D]「基礎学力」	440時間
[E]「専門学力」	500時間
[F]「海洋環境の開発と保全」	140時間
[G]「自主的な解決能力」	110時間
[H]「継続的な学習能力」	100時間

学習・教育到達目標に対する達成度

本プログラムにおける達成度は、[A]～[H]の目標時間に対する、学生が修得した学習保証時間の割合で示され、達成度 80%が合格基準となる。例えば[A]に対する達成度は下式によって評価される。

$$[A]\text{の達成度}(\%) = \frac{\sum \text{修得科目に割り振られた学習保証時間}[A]}{[A]\text{の目標時間}} \times 100$$

仮に[A]に対する学習保証時間が 60 時間であれば、その時点での達成度は 50%と評価されることになり、達成度が 100%となるためにはさらに 60 時間の学習保証時間の修得が必要であることが確認できる。他の項目についても同様であり、最終的に[A]～[H]の全ての達成度が 80%以上となった時に本プログラムの合格基準を満足したと判定される。

表 4 は、各科目と各学習・教育到達目標との対応関係と位置付けを示したものである。対応する項目には○印で、密接に対応する項目には◎印で、それぞれ示している。また表 5 には、[A]～[H]の各学習・教育到達目標に対して各科目に割り振られた学習保証時間を示している。

本学科の教育プログラムでは以上に述べたように学習・教育到達目標に則って教育し、厳格な成績評価を行っている。修得した科目に割り振られた学習保証時間を確認し、各学習・教育到達目標の達成度を自己評価したうえで、その後の履修計画に反映させることが重要である。